

【テーマを設定する】

普段から幼児クラスは自分たちで絵の具を混ぜて好きな色を作ったり、保育中の遊びでLaQでコマを作って回していた時に得た気づきや興味関心(回した時に色が混ざって違う色になる、等)を持っている。乳児クラスは遊びの中で色と言葉の一致及び興味が持てるような関わりをし、色の名前を繰り返したり、指さしたりする姿が見られている。クレヨンや絵の具、お花紙等普段の遊びの中や生活の中でも触れる機会が多い『色』への興味関心を深めていくためテーマに設定する。

【活動スケジュール】

◆5歳児◆

5月 らいおん組研究所 色研究
8月 朝顔の実験
9月 玉ねぎ・紫キャベツの染めだし
11月 色あそび

◆0歳児◆

4月 お花紙で色探し
11月 色あそび
12月 色積み木

活動① らいおんぐみ研究所で自分だけの色づくり ～5歳児～

●問いを考える

・「好きな色はどんないろ?」「自分の好きな色ってどうやって作るんだろう?」「同じ赤でもいろいろな赤色があるね!」という問いを基に活動をする。

●環境をデザインする

- ・保育室の一角にらいおんぐみ研究所を設置
- ・赤・青・黄の色の3原色の色水を透明な器に入れておく
- ・スポイト
- ・試験管
- ・作った色水を入れる袋
- ・色水を掲示する場所をつくる



●探究活動を実践する

- ・透明な器に入った色の3原色とスポイト・試験管をみて興味を持ち「実験みたい」とすぐに活動に取り掛かる姿が見られた。
- ・らいおん組研究所で、色を混ぜてそれぞれの色を作っていく中で、子どもたち自身が『友達と同じ色は作らない』というルールを決めて、並べて比べたりわずかな量の調整を子どもたち同士でする姿が見られた。
- ・次第に自分で作った色には自分で名前を付け、一人一人が色とイメージを結びつける姿があった。
- ・自分で作った色水をもって部屋の中を探索し、自分が作った色と同じ色を探る姿や、この色を作りたいと目的をもって色の調合を楽しむ姿が見られた。
- ・常にらいおんぐみ研究所にコーナーを設けていくことで、子どもたち自身の興味関心をもったタイミングでの遊びを実現することができ、自然と子どもたち同士で集まって遊びが広がっていった。

●振り返りを踏まえた気づき

- ・イメージした色を作る過程で、試行錯誤する子、試す中で友達と面白さを共有し、子どもたち自身で「こうしてみたらどうかな?」と遊びを広げていく姿がより多く見られた活動であった。
- ・保育者は環境の準備に徹し、子どもたちの気づきやつぶやきを拾い環境の再構成をしていくことで、子どもたち自身が主体的となって色の探究を広げていく姿に繋がっていった。
- ・子どもたちの興味・関心や気づきに応じて環境をさりげなく再構成しデザインを続けていくことが、子どもたちの探究心をさらに引き出すきっかけづくりにつながると改めて感じた。



活動②色の変化の不思議(あさがおの色水の実験) ～5歳児～

●問いを考える

・色研究所で作った色を自然物を使って同じ色にすることはできるのか？自然物を使ったらどんな色が生まれるのか？という問いをもとに活動をする。

●環境をデザインする

- ・あさがおを育てる
- ・すり鉢
- ・すり鉢で使う棒
- ・重曹
- ・酢
- ・図鑑
- ・透明カップ



●探究活動を実践する

・栽培活動であさがおを育て、色鮮やかなあさがおをみて、「どんな色になるのかな？」「僕は紫の朝顔で色を出してみたい」と、朝顔が次々と咲くことを楽しみにする姿があった。
・育てた朝顔を使ってすり鉢ですったり、袋に水と一緒にいれて揉みだしてみたりと色水を作り、お花の色や色を出すための材料によってできる色水の違いに気づく姿があった。
・図鑑を見て、重曹や酢を朝顔の色水に入れると色が変化するというものを子どもたち自身が見つけ、やってみたいと保育者に伝える姿が見られた。
・酢と重曹を準備し、色の変化の実験を行うと「なんで色が変わるんだろう？」とさらに問いが生まれていた。

●振り返りを踏まえた気づき

・日々すぐに手の届くところに図鑑があり、保育者がすぐに答えを言うのではなく、自分たちで考える時間を大切にできたことで、何かを知りたい時は、身近にある道具(図鑑)を使って調べる等、子どもたち自身が『なんで？』に対する解決策を自分たちの力で考えたり試したりする姿に繋がっていった。
・実際に自分たちで重曹や酢を入れてみることで、入れる量によっても色が変化することに気づく姿が見られ、色の変化から量への興味関心にもつながった。
・子どもたちのつぶやきの中で他のものも色が出るかやってみたいとの声が聞こえてきたため、様々な素材を準備していきたい。



活動③たまねぎの皮ってどんな色？ ～5歳児～

●問いを考える

・「お花以外のものからも色を出すことができるのかな？」「野菜の色ってどんな色？」という問いをもとに活動をする。

●環境をデザインする

- ・玉ねぎの皮
- ・鍋
- ・Tシャツ
- ・輪ゴム
- ・ビー玉
- ・様々な野菜の切れ端
- ・製氷ケース
- ・冷凍庫



●探究活動を実践する

・使わないお野菜で何か色ができないかと玉ねぎの皮を集め、栄養士と一緒に煮だしてみる経験をする、茶色の玉ねぎの皮が黄色になったことに驚く姿があった。
・玉ねぎで出た色を使って自分だけのオリジナルのTシャツを作り、白の布が黄色に変化したり、ビー玉と輪ゴムを使って模様をつけたことで、縛り方によっても色が変わること気づいていた。
・他の野菜ももっとやってみたいという声があり、子どもたち自身が「給食の先生にお野菜ないか聞いてみよう」と、自ら給食室に行き野菜の端切れをもらい、すりおろしたり絞ったりして色を出し、お絵描きしてみようと凍らせて氷絵を試してみる姿があった。

●振り返りを踏まえた気づき

・実際に色を煮だして白い色に着色する経験することでさらに色への興味が広がり、色水だけでなく着色する色水はどんなものだろうという興味にもつながった。
・子どもたち自身が、さらに『別の素材で色を出してみたい』という新たな探究に繋がり、さらに遊びが広がっていったため、子どもたちの関連付けや発想力が広がる活動となった。



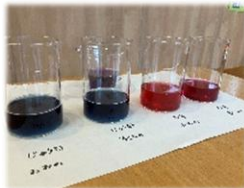
活動④紫キャベツの染めだし ～5歳児～

●問いを考える

・紫色の旗を作りたい！紫色に染めるためにはどうしたらいいんだろう？という問いをもとに活動をする。

●環境をデザインする

- ・紫キャベツ
- ・手ぬぐい
- ・鍋
- ・透明カップ
- ・重曹
- ・酢
- ・図鑑



●探究活動を実践する

・紫色の野菜って何があるかな？と図鑑を使って野菜を調べる姿があった。実際に近隣のスーパーに行き、紫色の野菜があるかを探しに行き、紫キャベツに興味を示し「これでやってみよう」と子どもたちからの発信があった。
・玉ねぎ皮で色を染めた際に、お湯で煮たことを思い出し、「お湯に入れたら色がたくさん出るんじゃない？」と栄養士に煮てほしいことを伝え、自分たちで紫キャベツをちぎって活動を始めた。
・時間の経過ごとに少しずつ抽出液を透明カップに取り出し色の変化を比べた。
・色を出している際に、朝顔の実験を思い出し「これに重曹や酢を混ぜたら色かわるかな？」と紫キャベツでも色の変化の実験をしてみたいことを提案する姿があった。

●振り返りを踏まえた気づき

・一度経験したことを別の活動とも紐づけてやってみようという姿が見られ、子どもたちの発信力をあたためて感じた活動であった。
・保育者があえて何もヒントを与えず、子どもたちの気づきやひらめきを待つ姿勢の大切さを改めて感じた。



活動①いろってなあに？ ～0歳児～

●問いを考える

・いろってなあに？あかってどんなもの？きいろ？みどり？という問いをもとに活動をする。言葉を獲得していく過程の0歳児の子どもたちが色に興味・関心が持てるきっかけづくりとして活動を進める。

●環境をデザインする

- ・様々な色の花紙
- ・広い部屋



●探究活動を実践する

・部屋一面に色とりどりのお花紙を準備し、子どもたちが気に入った色を手にしたり手に取ったお花紙の色を保育者が「〇〇色だね」と言葉で伝えていく。
・保育者が持っている色と同じ色を持ってくる子の姿も見られた。
・たくさん色がある中で、特定の色ばかりを手にする子も見られた。

●振り返りを踏まえた気づき

・言葉と物との一致の段階ではあるが、その中でも好んで手にする色がある子や、保育者と同じ色を選ぶ子など0歳児なりに色への興味が深まっていることを感じた。
・色ともの(りんご・バナナ等)で子どもたちのなじみのあるものを使って、色との一致を進めていくことでより子どもたちが色への興味を広げてくれるのではと感じた。
・子どもたちにとっての好きが一人一人異なり、0歳児のうちから様々な色に触れていくことでそれぞれが個性として好きな色に自信が持てるようなきっかけづくりにも繋がるのではと感じた。



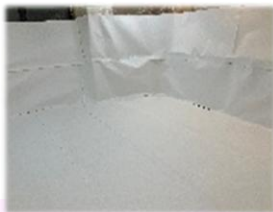
活動②絵の具をまぜてあそんでみよう～0歳児～

●問いを考える

・お花が見遊びや、普段の生活の中で色と言葉の一致がしてきた中で、さらに、色と色を混ぜたらどうなるの？という問いをもとに活動をする。

●環境をデザインする

- ・部屋一面を真っ白なキャンパスにする
(ロール画用紙・養生シート)
- ・汚れても良い洋服で登園してもらう
- ・絵の具
- ・筆
- ・皿



●探究活動を実践する

・部屋一面を真っ白なキャンパスにし真ん中に様々な色の絵の具を用意し絵の具遊びを行う。
・初めは用意してある色を手や筆につけ描く姿がみられたが、保育者がさりげなく2色の色を混ぜてみると真似をして色がついている壁に、別の色を重ねてみるといった姿が見られた。
・色を重ねてみると、別の色ができたり模様になったりすることに気がつき、保育者に指をさしたりしながら伝えようとする姿が見られた。

●振り返りを踏まえた気づき

・単色の色から色が混ざることを経験し、さらに色の面白さについて興味ができきたように思う。
・普段から色図鑑を好んで見ていることもあり、色ともの・言葉の一致はどんどん育まれているように感じるため、日々の環境構成と繰り返すことの大切さを改めて感じた。
・保育者の声かけや子どもたちに対する問いかけを工夫していくことでさらに色への興味関心を広げていけると感じている。



活動③色積み木であそんでみよう ～0歳児～

●問いを考える

・同じ色、違う色という色の識別がわかるようになってきた中で、さらに探究が深まっていくように遊びの中で同じ色の仲間わかるかな？という問いをもとに活動をする。

●環境をデザインする

- ・リグノ
- ・色絵本



●探究活動を実践する

・リグノブロックを用意し、真ん中に穴が開いている形の中に同じ色同士を合わせる遊びを通して色同士の仲間探しをする。
・同じ色を入れてみたり、別の色を入れてみたりしながら「同じ」「違う」と遊びを繰り返し楽しむ姿が見られた。



●振り返りを踏まえた気づき

・原色の積み木であったため、子どもたち・保育者同士でも色が明確であり色の認識を統一しやすい素材であったと感じる。
色と形で楽しめる素材であったため、継続して子どもたちが遊びこむ姿につながった。
もう少し早い段階からこういった玩具を用意し取り入れていくことで、さらに色や形の認識へとつなげていきやすいのではと感じた。

